

本多光太郎の代表的発明(KS鋼、新KS鋼)

第一次世界大戦中、我が国は外国からの物資の輸入が極端に困難となり、磁石鋼についても自給の必要性に迫られました。そこで、東北帝国大学の本多光太郎博士は、鉄の磁性研究に取り組み、従来の3倍の抗磁力をもつ永久磁石鋼(KS鋼)を発明しました。そして、さらに研究を進めた結果、KS鋼の数倍の抗磁力を持つ新KS鋼を発明しました。

KS鋼の発明は、日本の磁性材料発展の基礎となる偉業で、計測機器の性能を飛躍的に向上させるなど、工業発展に大きな貢献を果たしました。

また、本多博士は「産業は学問の道場なり」という名言を残しています。産業に役立つ研究こそが学者の本質であることを説き、自ら産学連携の実践に努めた結果、数多くの企業が誕生していきました。



KS鋼



本多博士が愛用した研究デスク